

マンスリーサンズ・トーク(71)

2014.10.1

木村 譚

エキシブ箱根離宮を楽しむ

9月の彼岸過ぎ、家内と一緒に箱根・宮ノ下のエキシブ箱根離宮へ行きました。なぜかという、夏中、暑くてあまり動かなかった反動からなのです。

この離宮は、老舗旅館の跡地に、超モダンなリゾートを構築した箱根でも最新のホテルなのです。

エントランスロビーに入ると、ジャワ島産のチーク材の巨木の根のオブジェが目を惹く。この地の観光地としての永い歴史を連想させ、または生きる者の躍動する生命を感じさせるような造形です。



写真は、上に客室棟の一つが見え、下に和食処・華暦、左にはダイニング&ラウンジがある。



この日は、夕食に白ワインでイタリアンをいただき、久しぶりの温泉を楽しみました。

朝は、和食を池の水面を望む「華暦」の個室でいただきましたが、この社のお客様に寄り添うようなサービス、おもてなしに感動しました。

総支配人のIさんにご挨拶、平日なのにお客様が一杯、そしてご婦人客が多いですねえ。

地形を生かした庭園の美しさ

庭園には、起伏に富んだ斜面を縫うように散策路が続いています。巡ってゆくと、早川に流れ落ちる湧水の小流れがそこここに見られ、沢蟹もいました。



ホテルの東側は早川溪谷を隔てて明星ヶ岳を望む



箱根登山鉄道・宮ノ下駅

鉄道は、東京行きが上りという決まりだが、この電車は上りが勾配で下り、下りが逆に登ってゆくの。また、ホテル前の街道は箱根駅伝が走る道ですが、東京の日本橋から続く国道1号線なのです。

リゾートは地方創生産業

安倍政権では、人口減少時代の日本を長期的に活性化するには、東京一極集中を極力緩和し、地方ごとの特色や個性を生かして産業、雇用、生活の活性化を地方創生策として強く推進してゆこうとしています。地方の活性化という意味でこのホテルの営業を見ると、リゾートというのはまさしく地方の創生そのものです。立派なリゾートサービス業が地場の産業や雇用を支え、活力を高める格好の業種ではないかと、改めて思えるのでした。